

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	1471300424
法人名	社会福祉法人 一燈会
事業所名	グループホーム はなの家
訪問調査日	平成20年11月5日
評価確定日	平成20年12月29日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

○項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20年 12月27日

【評価実施概要】

事業所番号	1471300424
法人名	社会福祉法人 一燈会
事業所名	グループホーム はなの家
所在地	259-0123 神奈川県中郡二宮町二宮490-1 (電 話) 0463-70-6200

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町3-30-8 SYビル2F		
訪問調査日	平成20年11月5日	評価確定日	平成20年12月27日

【情報提供票より】(平成20年10月1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	昭和・ 平 18年 3月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤 14 人, 非常勤 2 人, 常勤換算 15 人	

(2)建物概要

建物構造	木造作り		
	2階建ての	1階 ~	2階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	60,000 円	
敷 金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 /無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	400 円
	夕食	500 円	おやつ	130 円
	または1日当たり 円			

(4)利用者の概要(10月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	6 名	要介護2	5 名		
要介護3	4 名	要介護4	2 名		
要介護5	1 名	要支援2			
年齢	平均 84.9 歳	最低 72 歳	最高 93 歳		

(5)協力医療機関

協力医療機関名	住田医院、原歯科クリニック
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

経営は社会福祉法人一燈会で、老人福祉施設、老人保健施設、デイサービスセンター4カ所、高齢者支援センター3箇所、在宅介護支援センター、訪問看護ステーション、グループホーム4ヶ所を持つ福祉グループである。この介護方針は「誰よりもお客様の身になって」作られている。その精神は理念及び品質方針としてリビングに掲示されている。「はなの家」ではこの理念の実現のために「ありがとうがいっぱい」をテーマフレーズとして日夜努力している。このメリットは福祉グループのネットワークにより各種ノウハウの共有が出来ることである。「ありがとうがいっぱい」は登山者がすれ違いに挨拶する自然さで感謝の気持ちが素直に表せ、やさしさが通じあうことを目指している。職員が自ら業務目標と成長目標を掲げて取り組む体制が定着して、目標として「地域の高齢者1人と友達になる」と云った具体的なものを実行している。これなどは地域と密着する良い行動の1つと云える。施設長は発想が豊かであり、キラキラノート(後述)、知って得する勉強ファイルなどユニークな工夫により職員のスキルアップを図り、発想の転換により豊かな感受性と優しさを保つよう指導している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>① 前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) この1年はADLの低下、精神的不安定、これに伴う介護量の増大と反比例して要員不足の中で「利用者さん独自の生活の確立」を達成に努めた。要員不足と介護量の増大を職員の発想の転換→プログラム化等でカバーすることを目指し、未熟な職員については教育の強化に努めた。教育では出来ること、出来ないことをオープンにし、話し合える体制を整え、発想等が不十分な人には具体的に依頼するなど工夫して取り組んだ。体制派はほぼ固まったと考えている。</p>
	<p>② 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価に対する認識は全員理解出来ている。今回は、自己評価票を施設長が作成し、それを基にしてミーティングを開き、意見等を出してもらい、必要なものを加味する形で纏めた。発想の転換のためのキラキラノート(ケアで感じた感動を素直に自由に書き留めるノート)などでお互いに交換しあい、他人の気付きにより、更に発想の連鎖をするような工夫をした。この中から改善や次の行動が生まれることを期待している。</p>
重点項目	<p>③ 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は3ヶ月に1回のペースで実施している。そのうち1回は1周年記念行事と併せて開催した。運営推進会議のメンバーは自治会長、二宮町介護保険課職員(2名)、ご家族代表、施設長、ユニット長である。基本的には活動報告を中心として話し合いを持っている。運営推進会議に先立ち、レジュメを作り配布するようにしている。成果としてはご家族の全般的なご意見の把握、地域情報や行政情報の把握、具体的な活動に繋がる情報など有意義である。今回は防災がテーマとなっているが、地域との一体化の進捗が大切と考え取り組むことにしている。</p>
重点項目	<p>④ 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) ご家族にたいしては①広報紙「ほっこり笑顔」を写真を中心として毎月発行している。②居室担当が個人別の1ヶ月の様子を手紙形式のお便りとして届けている。③ご家族との連絡をタイムリーに、密にするため良く電話連絡をしている。④ご家族からの意見、苦情、不満があれば大至急全体に申し送り、事務所全体として最優先に改善している。⑤介護計画の更新時には重点的に状況について話し合うようにしている。</p>
重点項目	<p>⑤ 日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域密着については①老人会のかかわりで、町内のお掃除の協力をしている。②関連施設メゾン二宮で行われる納涼祭、運動会に参加している。(地域の方も参加する)③先日、はなの家の3周年記念まつりをを行い、ご近所の方々に参加して頂いた。④ボランティアではお散歩、華道、書道、将棋の方が定期的に来てくれている。⑤幼稚園との交流があり、年1回の園児訪問、運動会へのご招待がある。</p>

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の企業理念としては「誰よりもお客様の身になって」であり、事業所の理念としては「ありがとうがいっぱい」をモットーとしている。職員は各自「目標を立てることになっているが、ある職員が「地域の高齢者の友達を1人作る」と云う目標を立てた。職員全体が地域密着を意識し取り組んでいる例である。		今後も継続して実施して行く。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は年2回の個人別自己評価時に確認している。日々お客様と関わりながら感謝の気持ちを伝えるよう取り組んでいる。全職員が理念を理解した上で良質なサービスが提供出来るように毎日の会議などで共有に努めている。		今後も継続して実施して行く。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の方の受け入れ態勢がとても良く、地域行事(夏祭り・どんど焼き等)に参加している。老人会の清掃は毎月利用者1名、職員1名で参加している。		今後も継続して実施して行く。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価に対する認識は全員理解出来ている。今回は、自己評価票を施設長が作成し、それを基にしてミーティングを開き、意見等を出してもらい、必要なものを加味する形で纏めた。この中から改善や次の行動が生まれることを期待している。		今後も継続して実施して行く。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は基本的には活動報告を中心として話し合いを持っている。会議に先立ち、レジュメを作り配布するようにしている。成果としてはご家族の全般的なご意見の把握、地域情報や行政情報の把握、具体的な活動に繋がる情報など有意義である。次回は防災がテーマとなっているが、地域との一体化の進捗が大切と考え取り組むことにしている。		今後も継続して実施して行く。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議の他に利用者の入退所、介護保険関連、地域密着としての報告。相談を行っている。		今後も継続して実施して行く。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	ご家族にたいしては広報紙「ほっこり笑顔」の毎月発行、居室担当による個人別のお便り、連絡をタイムリーに、密にするための電話連絡等をしている。		今後も継続して実施して行く。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族からの意見、苦情、不満については大至急全体に申し送り、事務所全体として最優先に改善している。介護計画の更新時には重点的に状況について話し合うようにしている。	○	外部者へ表せる機会としては現状、運営推進会議のみであるが、他の表せる機会として町の相談員の協力を求め窓口の門戸を広げたいと考えている。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職を抑えるように雇用の見直しやプライベートを大切にした仕事の取り組みを考え、会社として取り組んでいる。異動することへの利用者のダメージは伝えているが、必要となった時には異動以外の職員全員でチームケアにより不安を感じさせないよう関わっている。		今後も継続して実施して行く。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の勉強会も多く、外部の研修情報の提供をし、段階に応じて請けられる体制となっている。職員と対話をもち個人が何を学びたいかを把握した上で、研修を受ける機会を確保している。(月1名ずつ実行中)		今後も継続して実施して行く。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人として各種の介護事業に取り組んでいるので、学べる範囲も広く、交流の機会もあるので職員の良い刺激となっている。月1回法人内他施設の研修に行き、また法人内の勉強会には参加している。		今後も継続して実施して行く。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	必要に応じて徐々に馴染めるような方法(まずは見学で雰囲気を感じて頂き、面接時に昼食を食してもらったり、必要に応じて短時間の体験入所を実施)を提案しているが、ご家族に時間的、精神的余裕がない入居が殆んどである。法人内の訪問介護やデイの利用からの親近感での入居の増加を期待している。		今後も継続して実施して行く。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	居室の掃除、料理の場面など利用者を交えて「一緒に過ごす」ことに努めている。ゴキブリ1匹出ても伝えたり、料理も相談して生活の知恵を学んでいる。発想の転換のためのキラキラノート(ケアで感じた感動を素直に自由に書き留めるノート)などでお互いに交換しあい、他人の気付きにより、更に発想の連鎖をするような工夫をしている。	○	ケアで感じた感動を素直に自由に書き留めケアの向上に生かして行く。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人がどんな生活を望んでいるか個別ケアの充実は事業計画の1つでもあり、居室担当を中心に努力している。困難な人に対しては本人本位に検討出来るよう数人で話をするようにしている。		今後も継続して実施して行く。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご家族へは日々の関わりから求めていることを感じ取り、居室担当を中心に日常会話の中で、意見や思いを情報収集し、カンファレンスにはユニット職員全員参加とし意見を出し合い介護計画に反映させている。		今後も継続して実施して行く。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケアマネが指揮をとって、必要に応じて現状に即した計画作成に努めている。見直しが必要と判断したときに、すぐに計画の見直しを行っている。	○	見直しが必要と判断したときに、遅滞無く計画見直しに取り組める体制を固めたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	法人内の訪問介護やデイの利用からの親近感での入居の増加を期待している。ご家族は希望により泊まっていられたいしている。		今後も継続して実施して行く。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームとしての主治医はあるが、ご家族の希望を第1にかかりつけ医を決めて頂き、ホームとして適切な医療を受けられるように情報を提供している。		今後も継続して実施して行く。
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療の対応が必要になる場合に備え、入所時には特養への申し込みの話もしている。主に管理者が携わっているが、全員に方針の共有を認識するよう教育している。方針についての話し合いのたびに記録を残し全員で方針の共有が出来るようにしている。		今後も継続して実施して行く。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報に関しては情報の共有が出来るようにノートやファイルを活用し、利用者との関わりに生かしており、取り扱いにも注意している。		今後も継続して実施して行く。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	現状では希望を主張出来る方の方が少ない。個人のペース、生活リズムはしっかり把握しており、そこに合わせた声掛けを行っている。食後の食休みまで考えたケアを深めたい。	○	利用者の状況を考えたケアを進めて行く。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理が苦手な職員は教わることで楽しく協力しながら利用者の力を活かしている。不安のある利用者が楽しく安心して調理に入れるような声掛けは出来ている。	○	一緒に食事を作る、利用者と一緒に楽しむことを推進する。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴したい人には毎日入浴して頂いたり、基本的な時間帯は10:00～17:00であるが希望があれば時間に関係なく対応している。		今後も継続して実施して行く。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	5つのクラブ活動・散歩・外出などで気晴らしが上手に出来るよう支援している。調理・配膳なども上手く役割も出来ている。		今後も継続して実施して行く。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日外出出来るように業務割り、人員配置を工夫しており、必ず誰かが外出している。希望に対してもすぐ対応出来るようにしている。		今後も継続して実施して行く。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室のかぎは1名のみ自分でかける人がいる。日中玄関、門は夜意外は開けており、各ユニットの出入り口の戸は見守りすることを心がけ、安全を判断した時は常に開ける努力をしている。		今後も継続して実施して行く。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の方に来てもらい火災訓練を行っている。地域の人々の協力については、まだ働きかけていない。	○	日頃より地域の人との関わり及び運営推進会議での話し合いを大切にして対応していく。家族・職員の緊急連絡網を作成したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人記録で確認しながら不足に対応出来るよう連携をとっている。栄養摂取においては個別ケアも含め取り組んでいる。		今後も継続して実施して行く。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が見て楽しめるような季節感を取り入れた掲示をし、利用者を楽しんで頂いている。ご家族にも好評である。		今後も継続して実施して行く。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	安全を第1にご家族とともに考え、居室内の環境作りをしている。		今後も継続して実施して行く。

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かして下さい。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的にかつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム はなの家
(ユニット名)	ホビー
所在地 (県・市町村名)	259-0123 神奈川県中郡二宮町二宮490-1
記入者名 (管理者)	久保田 桂子
記入日	平成 19 年 10 月 6 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の企業理念として「誰よりもお客様の身になって」事業所として「ありがとうがいっぱい」をモットーとしている。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は年2回自己評価時に確認している。日々お客様関わりながら感謝の気持ちを伝えるよう取り組んでいる。が、忘れていた職員も居ます。	○	全職員が理念を理解した上で良質なサービス提供ができるように、毎月の会議などを使い共有していく。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	理念は町内の看板などにもかかげている。又、運営推進会議などで地域の方との関わりや感謝の思いを伝えている。		
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩では自ら進んで挨拶するよう努めている。お客様と散歩しながら、畑仕事をされている近所の方などと立ち話をしたり関わらせて頂いている。立ち寄ってくださる方は2～3名位居ます。	○	災害時などに地域の方に協力して頂けるような関係と体制を築く。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の方の受け入れ態勢がとても良く、誘って頂いていますので、参加させて頂いている。老人会の清掃は毎月お客様1名職員1名で参加させて頂いている。		
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)

6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	以前地域の高齢者の暮らしの充実を考え、クラブ活動への参加を回覧版に入れさせて頂いたが、反応が全くありませんでした。現在は取り組みありません。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	理解はできているが、評価を活かしてというよりも、日々直面した事に必死に取り組んでいるのが現状である。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議にて頂いた希望や意見については常に前向きに取り組んでいる。ご家族が希望されていた「面会者表を作成し、どんな方が面会に来られたか知りたい。」はすぐ実行させてもらいました。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	お客様の入退所・介護保険制度や地域密着としての報告・相談をさせて頂いている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者とユニット長においては学ぶ機会をもうけ、理解しているが、他の職員は知らない。成年後見制度が必要と悩んでいたご家族へ助言させて頂いたりと活用しています。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	学ぶ機会はこの所全く設けていない。事業所内の会議や日々の関わりの中で虐待にならないように気持ちの持ち方など対話を持つようにしている。	○	学ぶ機会を設けていきたい。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				

12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前の面接や見学時にも大まかに説明させて頂き、入所時の契約時には書類を読み上げながら理解しやすいように説明している。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ボランティアの受け入れや町から来られる相談員などが主な外部者となっている。意見・不満・苦情はそのまま流さずに申し送り、みんなで考える環境はできている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月の手紙での報告の他にも、変わったことがあるたびに連絡し、報告させて頂いている。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者・職員の耳に入ったご家族の意見・不満・苦情は大至急全体へ申し送るなどし、事業所全体で取り組んでいる。	○	外部者へ表わせる機会としては、運営推進会議のみとなっている。職員から離れた所で本音を打ち明けられるように、町の相談員などの協力を求め、窓口を増やしたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の関わり以外には年2回の職員評価時の面接や毎月の会議などで意見・提案を聞く機会を設けている。	○	機会としては設けているが、日々忙しすぎる管理者の姿を感じ、言いづらい事もあるかと思います。職員の働きやすい環境作りの為にも管理者の仕事のゆとりを築いて行く。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	フリーな内容で勤務しているケアマネを上手く活用したり、日勤者で柔軟に対応出来るよう業務調整したり努力している。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職を抑えるように雇用の見直しやプライベートを大切にしたい仕事の取り組みを考え、会社として取り組んでいる。異動する事へのお客様のダメージは伝えているが、必要となった時には、異動職員以外の職員全員で不安を感じさせてしまわぬよう関わっている。		
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
	○職員を育てる取り組み			

19	<p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人内での勉強会も多く、外の研修においても研修情報を得る手段を設けられており、段階に応じて受けられるようになっている。</p>	○	<p>感受性を豊かにする育成手段として今後の課題である。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>法人として色々な介護事業に取り組んでいるので、学べる範囲も広く、交流の機会もあるので職員のよい刺激となっている。</p>		
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>職員のストレスにおいて、意識改善する事で軽減出来るよう関わっているが、環境づくりとしてはまだ不足していると考えている。</p>	○	<p>休憩時間にしっかり休める環境づくり。全職員の仕事のゆとりを考える。</p>
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>管理者として職員個々を把握し、不足している事は正直に向かい合うよう努めている。そして何よりも介護の良さ、素晴らしさを伝えていく事で各自の向上心へとつながるよう努めている。</p>		

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応

23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>見学・面接などでご本人の意をしっかりと把握し受けとめ、何をどうして行くか考えるよう努めてはいる。</p>		
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>見学・面接などでご家族の大変な思いを受容し、一緒に歩んで行けるよう関わらせて頂いている。不安になったらすぐ電話してもらえよう伝えている。</p>	○	<p>いつでも誰でも対応出来るようにしていく必要はあります。</p>
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>			

26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気になら馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	必要に応じて、徐々に馴染めるような方法を提案させてもっていますが、ご家族の時間、精神的な余裕がなく入所となる事がほとんどです。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	何事もお客様を交えて関わるように努めていて、ゴキブリ1匹出てもお客様に伝えてみたり、料理なども相談し、生活を知恵を学んでいる。	○	職員の中には、お客様に教えるとかやっつけてあげている的な発言もあるので、心打たれる関わりをノートを作り共感して行けるように取り組みたいです。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	職員がお客様に関して悩んだり、素敵だった事や思いを伝えたり、イベントに参加して頂いたりしながら一緒に歩みたい思いを伝えている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご本人と家族との関係を把握・理解した上で、はなの家でそのお客様への感謝の思いをご家族に伝える事で、より良い関係となるよう支援している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている		○	現状は途切れている。情報収集からはじめる必要がある。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	お客様同志の関係は全職員把握しており、上手く関わられるように気配りしている。		
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	他の施設へ入所となったお客様の面会に行ったり、退所されたお客様のご家族が遊びに来られたりと大切にしている。		

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握

33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	居室担当を中心に把握に努めている。困難な方に関しては本人本位に検討出来るよう数人で話しをするようにしている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面接時の情報収集の他に、入所されてからの関わりの中で情報収集している。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	現状把握は全職員出来ており、お客様の変化を感じれるように3ヶ月に1度ADL表を作るようにしている。		

2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し

36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご家族へは日々の関わりから求めている事などを感じ、カンファレンスにはユニット職員全員参加とし、色んな意見を出し合い反映させている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間での見直しは何とか出来ているが、変化が生じた場合のケアの現状とプランとが違ってしまったりする事がある。	○	変化に応じて計画を作成しなおす事をして行く。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録については、状態変化を振り返ったりしながら再確認し、ケアに生かせるようにしている。計画の実践がしやすいような記録用紙になっている。		

3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている			
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティアを余暇活動として受け入れており、避難訓練で消防・地域の図書館の利用などし、お客様の支援に取り入れている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	福祉用具の利用をされている方多い。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している			
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	グループホームとしての主治医はありますが、ご本人やご家族の希望を第1にかかりつけ医を決めて頂き、事業所として適切な医療を受けられるように情報を提供している。		
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	現状神経内科に月3名通っています。必要に応じて通院以外にも電話で相談させて頂いたり指示をもらったりと、関係築けている。		
	○看護職との協働			

45	利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職との関わりはない。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院されたお客様が居られたら、面会に行きながら情報交換や現状把握とホームとしての受け入れるにあたり現状を理解してもらえよう努めている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	方針についての話し合いをするたびに記録に残し、全員で共有できるようにしている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	事業所として出来る事・出来ない事をご家族・医師に伝えた上で、理解を得た上で、チームとして支援に取り組んでいる。	○	お客様のかかりつけ医によっては同じ思いで向かえない現状もあるので、医師との関わりを密にし、協力体制を築いて行きたい。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	ホーム側から細かい情報提供をしていると共に、移った後にも関わりながらダメージを少なく出来るよう努めている。		
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
	○プライバシーの確保の徹底			

50	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報に関しては情報の共有が出来るようノートやファイルを活用し、お客様との関わりに活かしており、取り扱いにも注意している。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	自己決定の難しい方には、本人の立場で考えるよう心掛け、そうでない方には選択して頂けるような声掛けを心掛けている。お客様の気分が明るくなるような話術を磨いている。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	現状では希望を主張出来る方の方が少ない。個人のペース・生活リズムはしっかり把握しており、そこに合わせた声掛けを行なっている。	○	例えば食後のお客様の食休めについてしっかり考える事まで出来てない未熟さもある為取り組んで行く。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	催物など特別な日がある場合には、お客様に意識して頂けるように努めており、理・美容についてもお店に行く方やホームでのカットの方と居られる。切った後の会話を大切にしている。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理が苦手な職員は教わる事で楽しく協力しながらお客様の力を活かしている。不安のあるお客様が楽しく安心して調理に入れるような声掛けは出来ている。	○	一緒に食事を作るよりも、手伝いの短時間お客様を利用するとか、一緒に出来上がりまでを楽しまず、職員1人で作り上げる事に必死となってしまう所もある為、見直していく。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	お酒・おやつ・ジュースなどいつでも楽しめるよう常備している。又何か食べたい希望にすぐに対応出来るよう心掛けている。		
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	居室担当が中心となり、現在の排泄がご本人にとって適切なものかは常に意識しており、改善に努めている。		
	○入浴を楽しむことができる支援			

57	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的に時間帯は10:00～17:00であるが、希望があれば時間に関係なく入浴して頂いている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している		○	食後の休息を考えた上での次の取り組みへの声掛けを行なえるよう気配りして行く。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	5つのクラブ活動・散歩・外出などで気晴らしが上手く出来るよう支援している。調理・配達なども上手く役割も出来ている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している		○	全てのお客様のお金の管理は職員がさせて頂いている。お金を使う能力のある方に対して自立の支援を行っている。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日外出出来るように業務割り人員配置をつくっており、必ずどなたか外出している。希望に対してもすぐ対応出来るようにしている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	外出支援にあたり、交通機関も電車利用なども含め雰囲気作りに力を入れている。	○	ADL低下ぎみのお客様に対して外出(普段行けない場所)への取り組みが薄くなっているように思う。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族への不安やストレスがたまっていると感じた時には、家族と話し、安心して頂けるように支援している。		
	○家族や馴染みの人の訪問支援			

64	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	居心地良い環境作りとして、お客様の家族との会話を大事にしたり、手伝って頂くように努めている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	落ちつかない危険性のある方とは、付き添う努力をするなど拘束しないケアに努めている。	○	「具体的な行為」について正しくしっかり理解は出来ていない。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室のかぎは、1名のみご自分で使われている方がいる。玄関・門は夜以外は開いている。玄関につながるユニットのドアは見守りする事を心掛け開ける努力をしている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日勤者3人で声掛け合いながら、所在確認出来ている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	1人ひとりの状態と危険性を考え、お預りするなど対応している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	食事形態・服薬方法など1人ひとり対応方法は違う。食事時は危険性の高い方の横に職員がついて食すようにしている。	○	食事配膳後、お客様が食べはじめる時には職員も着席すべきであるが、出来ていない。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている		○	訓練としては行っていない。年に数回行っていきたい。
	○災害対策			

71	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域の人々との関わりは大切にしているが、災害時の協力を得られるように働きかけまでは出来ていない。	○	家族・職員への緊急連絡網を作成したい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	居担を中心にご本人の状況など細かく報告出来ており、抑圧感のない暮らしについても家族と共感し合っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	申し送り、日誌などで速やかな情報共有が出来ている。対応に迷った時は、1人で判断しないように努めている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	何の薬を飲んでいるかの理解してはいるが、細かくまで覚えていない。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	朝1牛乳・朝食ヨーグルト・体操・散歩などに取り組んでいる。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、口腔ケア促し行っている。本人の強い希望や習慣がある方には、そこを優先させて頂き、夜の1回をすすめている。		
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別記録で確認しながら不足に対応出来るよう連携をとっている。栄養摂取においては個別ケアも含め取り組んでいる。		
	○感染症予防			

78	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	ホームで出来る事は限られており、うがい・手洗いの徹底・ハイター掃除の徹底をしている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	使用食材は2日に1度買い物へ行くようにし、新鮮なものを新鮮なうちに使うようにしている。台所も1回1回掃除を徹底している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関に季節の花を置いたり、近所の方がプレゼントしてくれた風車を飾るなどしている。道を歩く方も楽しまれている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	お客様が見て楽しめるような季節感を採り入れた掲示をし、お客様に楽しんで頂けている。ご家族にも好評です。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居場所は限られている中、独りになるのに居室へ入られたり、リビングに出て来られ会話を楽しまれたり、リビングで居眠りされていたりと過ごされており、雰囲気作りに力を入れてきました。		
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	安全を第1にご家族と共に考え居室内の環境作りをしている。		
	○換気・空調の配慮			

84	<p>気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>離席時には必ず室内換気をするようにしている。エアコンでの温度調節の他にも衣類での調節などで配慮している。</p>		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>回路式となっている廊下の壁には、以前外出した写真など掲示されており、廊下の手すりにつかまりながら見て楽しめる。つかまれるような所にイスや机があるので、自立した生活がしやすい。</p>		
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>混乱や失敗を妨げるよう努めているが、もし起こってしまった時には、笑いに変えたり、はずかしい事ではないと思えるような声掛けをしたりしている。</p>		
87	<p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>ベランダ・外周においては危険性も大きくあるので共に過ごしながら活用している。</p>		

V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・毎日の散歩はお客様の気分転換やレベル低下を防ぐ為にもとても大事と認識しており、取り組んでいる。
- ・年間でイベントも季節毎にあり、お客様の笑顔求めて企画・実行に力を入れている。
- ・居室担当としての意識も高く、身体・精神共に観察し、対応に力を入れている。
- ・お客様が満足して頂けるように努めている。

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かして下さい。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的にかつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム はなの家
(ユニット名)	ひまわり
所在地 (県・市町村名)	259-0123 神奈川県中郡二宮町二宮490-1
記入者名 (管理者)	久保田 桂子
記入日	平成 19 年 10 月 6 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	○	全職員が理念を理解した上で良質なサービス提供ができるように、毎月の会議などを使い共有していく。
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる		
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	○	災害時などに地域の方に協力して頂けるような関係と体制を築く。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		
項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)

6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	以前地域の高齢者の暮らしの充実を考え、クラブ活動への参加を回覧版に入れさせて頂いたが、反応が全くありませんでした。現在は取り組みありません。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	理解はできているが、評価を活かしてというよりも、日々直面した事に必死に取り組んでいるのが現状である。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議にて頂いた希望や意見については常に前向きに取り組んでいる。ご家族が希望されていた「面会者表を作成し、どんな方が面会に来られたか知りたい。」はすぐ実行させてもらいました。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	お客様の入退所・介護保険制度や地域密着としての報告・相談をさせて頂いている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者とユニット長においては学ぶ機会をもうけ、理解しているが、他の職員は知らない。成年後見制度が必要と悩んでいたご家族へ助言させて頂いたり活用しています。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	学ぶ機会はこの所全く設けていない。事業所内の会議や日々の関わりの中で虐待にならないように気持ちの持ち方など対話を持つようにしている。	○	学ぶ機会を設けていきたい。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				

12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前の面接や見学時にも大まかに説明させて頂き、入所時の契約時には書類を読み上げながら理解しやすいように説明している。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ボランティアの受け入れや町から来られる相談員などが主な外部者となっている。意見・不満・苦情はそのまま流さずに申し送り、みんなで考える環境はできている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月の手紙での報告の他にも、変わったことがあるたびに連絡し、報告させて頂いている。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者・職員の耳に入ったご家族の意見・不満・苦情は大至急全体へ申し送るなどし、事業所全体で取り組んでいる。	○	外部者へ表わせる機会としては、運営推進会議のみとなっている。職員から離れた所で本音を打ち明けられるように、町の相談員などの協力を求め、窓口を増やしたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の関わり以外には年2回の職員評価時の面接や毎月の会議などで意見・提案を聞く機会を設けている。	○	機会としては設けているが、日々忙しすぎる管理者の姿を感じ、言いづらい事もあるかと思います。職員の働きやすい環境作りの為にも管理者の仕事のゆとりを築いて行く。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	フリーな内容で勤務しているケアマネを上手く活用したり、日勤者で柔軟に対応出来るよう業務調整したり努力している。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職を抑えるように雇用の見直しやプライベートを大切にしたい仕事の取り組みを考え、会社として取り組んでいる。異動する事へお客様のダメージは伝えているが、必要となった時には、異動職員以外の職員全員で不安を感じさせてしまわぬよう関わっている。		
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
	○職員を育てる取り組み			

19	運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での勉強会も多く、外の研修においても研修情報を得る手段を設けられており、段階に応じて受けられるようになっている。	○	感受性を豊かにする育成手段として今後の課題である。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人として色々な介護事業に取り組んでいるので、学べる範囲も広く、交流の機会もあるので職員のよい刺激となっている。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員のストレスにおいて、意識改善する事で軽減出来るよう関わっているが、環境づくりとしてはまだ不足していると考えている。	○	休憩時間にしっかり休める環境づくり。全職員の仕事のゆとりを考える。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	管理者として職員個々を把握し、不足している事は正直に向かい合うよう努めている。そして何よりも介護の良さ、素晴らしさを伝えていく事で各自の向上心へとつながるよう努めている。		

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応

23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	見学・面接などでご本人の意をしっかり把握し受けとめ、何をどうして行くか考えるよう努めてはいる。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	見学・面接などでご家族の大変な思いを受容し、一緒に歩んで行けるよう関わらせて頂いている。不安になったらすぐ電話してもらえよう伝えている。	○	いつでも誰でも対応出来るようにしていく必要はあります。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている			

26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気にならぬように馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	必要に応じて、徐々に馴染めるような方法を提案させてもっていますが、ご家族の時間、精神的な余裕がなく入所となる事がほとんどです。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	何事もお客様を交えて関わるように努めていて、ゴキブリ1匹出てもお客様に伝えてみたり、料理なども相談し、生活を知恵を学んでいる。	○	職員の中には、お客様に教えるとかやっつけてあげている的な発言もあるので、心打たれる関わりをノートを作り共感して行けるように取り組みたいです。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	職員がお客様に関して悩んだり、素敵だった事や思いを伝えたり、イベントに参加して頂いたりしながら一緒に歩みたい思いを伝えている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご本人と家族との関係を把握・理解した上で、はなの家でそのお客様への感謝の思いをご家族に伝える事で、より良い関係となるよう支援している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている		○	現状は途切れている。情報収集からは始める必要がある。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	お客様同志の関係は全職員把握しており、上手く関わられるように気配りしている。		
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	他の施設へ入所となったお客様の面会に行ったり、退所されたお客様のご家族が遊びに来られたりと大切にしている。		

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握

33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	居室担当を中心に把握に努めている。困難な方に関しては本人本位に検討出来るよう数人で話しをするようにしている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面接時の情報収集の他に、入所されてからの関わりの中で情報収集している。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	現状把握は全職員出来ており、お客様の変化を感じれるように3ヶ月に1度ADL表を作るようにしている。		

2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し

36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご家族へは日々の関わりから求めている事などを感じ、カンファレンスにはユニット職員全員参加とし、色んな意見を出し合い反映させている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間での見直しは何とか出来ているが、変化が生じた場合のケアの現状とプランとが違ってしまったりする事がある。	○	変化に応じて計画を作成しなおす事をして行く。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録については、状態変化を振り返ったりしながら再確認し、ケアに生かせるようにしている。計画の実践がしやすいような記録用紙になっている。		

3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている			
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティアを余暇活動として受け入れており、避難訓練で消防・地域の図書館の利用などし、お客様の支援に取り入れている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	福祉用具の利用をされている方多い。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している			
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	グループホームとしての主治医はありますが、ご本人やご家族の希望を第1にかかりつけ医を決めて頂き、事業所として適切な医療を受けられるように情報を提供している。		
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	現状神経内科に月3名通っています。必要に応じて通院以外にも電話で相談させて頂いたり指示をもらったりと、関係築けている。		
	○看護職との協働			

45	利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職との関わりはない。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院されたお客様が居られたら、面会に行きながら情報交換や現状把握とホームとしての受け入れるにあたり現状を理解してもらえよう努めている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	方針についての話し合いをするたびに記録に残し、全員で共有できるようにしている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	事業所として出来る事・出来ない事をご家族・医師に伝えた上で、理解を得た上で、チームとして支援に取り組んでいる。	○	お客様のかかりつけ医によっては同じ思いで向かえない現状もあるので、医師との関わりを密にし、協力体制を築いて行きたい。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	ホーム側から細かい情報提供をしていると共に、移った後にも関わりながらダメージを少なく出来るよう努めている。		
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
	○プライバシーの確保の徹底			

50	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報に関しては情報の共有が出来るようノートやファイルを活用し、お客様との関わりに活かしており、取り扱いにも注意している。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	自己決定の難しい方には、本人の立場で考えるよう心掛け、そうでない方には選択して頂けるような声掛けを心掛けている。お客様の気分が明るくなるような話術を磨いている。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	現状では希望を主張出来る方の方が少ない。個人のペース・生活リズムはしっかり把握しており、そこに合わせた声掛けを行なっている。	○	例えば食後のお客様の食休めについてしっかり考える事まで出来てない未熟さもある為取り組んで行く。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	催物など特別な日がある場合には、お客様に意識して頂けるように努めており、理・美容についてもお店に行く方やホームでのカットの方と居られる。切った後の会話を大切にしている。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理が苦手な職員は教わる事で楽しく協力しながらお客様の力を活かしている。不安のあるお客様が楽しく安心して調理に入れるような声掛けは出来ている。	○	一緒に食事を作るよりも、手伝いの短時間お客様を利用するとか、一緒に出来上がりまでを楽しまず、職員1人で作り上げる事に必死となってしまう所もある為、見直していく。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	お酒・おやつ・ジュースなどいつでも楽しめるよう常備している。又何か食べたい希望にすぐに対応出来るよう心掛けている。		
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	居室担当が中心となり、現在の排泄がご本人にとって適切なものかは常に意識しており、改善に努めている。		
	○入浴を楽しむことができる支援			

57	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的に時間帯は10:00～17:00であるが、希望があれば時間に関係なく入浴して頂いている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している		○	食後の休息を考えた上での次の取り組みへの声掛けを行なえるよう気配りして行く。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	5つのクラブ活動・散歩・外出などで気晴らしが上手く出来るよう支援している。調理・配達なども上手く役割も出来ている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している		○	全てのお客様のお金の管理は職員がさせて頂いている。お金を使う能力のある方に対して自立の支援を行って行く。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日外出出来るように業務割り人員配置をつくっており、必ずどなたか外出している。希望に対してもすぐ対応出来るようにしている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	外出支援にあたり、交通機関も電車利用なども含め雰囲気作りに力を入れている。	○	ADL低下ぎみのお客様に対して外出(普段行けない場所)への取り組みが薄くなっているように思う。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族への不安やストレスがたまっていると感じた時には、家族と話し、安心して頂けるように支援している。		
	○家族や馴染みの人の訪問支援			

64	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	居心地良い環境作りとして、お客様の家族との会話を大事にしたり、手伝って頂くように努めている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	落ちつかない危険性のある方とは、付き添う努力をするなど拘束しないケアに努めている。	○	「具体的な行為」について正しくしっかり理解は出来ていない。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室のかぎは、1名のみご自分で使われている方がいる。玄関・門は夜以外は開いている。玄関につながるユニットのドアは見守りする事を心掛け開ける努力をしている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日勤者3人で声掛け合いながら、所在確認出来ている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	1人ひとりの状態と危険性を考え、お預りするなど対応している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	食事形態・服薬方法など1人ひとり対応方法は違う。食事時は危険性の高い方の横に職員がついて食すようにしている。	○	食事配膳後、お客様が食べはじめる時には職員も着席すべきであるが、出来ていない。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている		○	訓練としては行っていない。年に数回行っていきたい。
	○災害対策			

71	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域の人々との関わりは大切にしているが、災害時の協力を得られるように働きかけまでは出来ていない。	○	家族・職員への緊急連絡網を作成したい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	居担を中心にご本人の状況など細かく報告出来ており、抑圧感のない暮らしについても家族と共感し合っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	申し送り、日誌などで速やかな情報共有が出来ている。対応に迷った時は、1人で判断しないように努めている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	何の薬を飲んでいるかの理解してはいるが、細かくまで覚えていない。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	朝1牛乳・朝食ヨーグルト・体操・散歩などに取り組んでいる。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、口腔ケア促し行っている。本人の強い希望や習慣がある方には、そこを優先させて頂き、夜の1回をすすめている。		
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別記録で確認しながら不足に対応出来るよう連携をとっている。栄養摂取においては個別ケアも含め取り組んでいる。		
	○感染症予防			

78	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	ホームで出来る事は限られており、うがい・手洗いの徹底・ハイター掃除の徹底をしている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	使用食材は2日に1度買い物へ行くようにし、新鮮なものを新鮮なうちに使うようにしている。台所も1回1回掃除を徹底している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関に季節の花を置いたり、近所の方がプレゼントしてくれた風車を飾るなどしている。道を歩く方も楽しまれている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	お客様が見て楽しめるような季節感を採り入れた掲示をし、お客様に楽しんで頂けている。ご家族にも好評です。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居場所は限られている中、独りになるのに居室へ入られたり、リビングに出て来られ会話を楽しまれたり、リビングで居眠りされていたりと過ごされており、雰囲気作りに力を入れました。		
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	安全を第1にご家族と共に考え居室内の環境作りをしている。		
	○換気・空調の配慮			

84	<p>気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>離席時には必ず室内換気をするようにしている。エアコンでの温度調節の他にも衣類での調節などで配慮している。</p>		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>回路式となっている廊下の壁には、以前外出した写真など掲示されており、廊下の手すりにつかまりながら見て楽しめる。つかまれるような所にイスや机があるので、自立した生活がしやすい。</p>		
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>混乱や失敗を妨げるよう努めているが、もし起こってしまった時には、笑いに変えたり、はずかしい事ではないと思えるような声掛けをしたりしている。</p>		
87	<p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>ベランダ・外周においては危険性も大きくあるので共に過ごしながら活用している。</p>		

V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・毎日の散歩はお客様の気分転換やレベル低下を防ぐ為にもとても大事と認識しており、取り組んでいる。
- ・年間でイベントも季節毎にあり、お客様の笑顔求めて企画・実行に力を入れている。
- ・居室担当としての意識も高く、身体・精神共に観察し、対応に力を入れている。
- ・お客様が満足して頂けるように努めている。